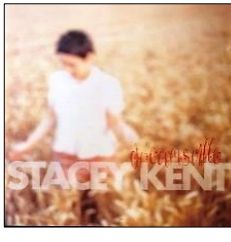


Cool (前編)

● 1		Ann Burton / Lover, Come Back to Me (He's Funny That Way (1977)) '4:15' Ken McCarthy (p), 稲葉 国光 (b), 小原 哲次郎 (ds) パイオニア・スタジオでのダイレクト・カッティング盤(※) 1933.3.4 ~ 1989.11.29 オランダ生れ(享年56歳)。今年に没後30年にあたる。ベテランのミュージシャンでも緊張すると言われるダイレクト・カッティング録音。そのせいか、そつなく歌いながらもそこはかとなく張り詰めた空気感が漂うアルバム。アップテンポの軽快な紹介曲ではエンディングの演出が特にクール。
◎ 2		Diana Krall / Let's Fall in Love (LIVE IN PARIS (2002)) '4:33' Diana Krall (Vo,p), Anthony Wilson (g), John Clayton (b), Jeff Hamilton (ds), Orchstre Symphonique Europeen 1964.11.16 カナダ生れ (54歳) 現代女性ジャズ・ヴォーカリスト代表格の一人。 自身でピアノを弾きながら歌う彼女は、ルックスも歌唱表現もまさにクールそのもの。歌詞の途中にアドリブを入れるなど余裕と貫禄もうかがわせる所はさすが。

Soft & Cute

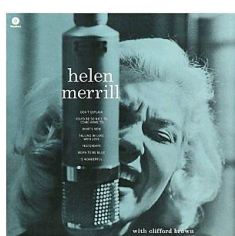
◎ 3		Stacey Kent / I've Got a Crush on You (Dreamsville (2000)) '4:40' Colin Oxley (g), David Newton (p) 1968.3.27 アメリカ合衆国生れ (51歳) 可憐でソフトな声と歌唱で人気の高い傑作バラード・アルバムからの1曲。アコースティック・ギターとピアノのシンプルなデュオ演奏をバックに子守唄のように優しくしつとりと歌い、聴いているうちに心地よさのあまり眠ってしまいそう・・・
● 4		Doris Day & Andre Previn / Close Your Eyes (DUET (1962)) '3:11' Andre Previn (p), Red Mitchell (b), Frank Capp (ds) 1922.4.3 ~ 2019.5.13 アメリカ合衆国生れ (享年97歳) 5月に97歳で亡くなった彼女と、2月に89歳で亡くなったプレヴィンに追悼の意を表します。小気味よくスウィングするプレヴィンのピアノ・トリオをバックに生き生きと歌う彼女。キュートな声と歌唱の中に力強さも垣間見られる1曲。ドリス・デイ40歳の録音。

Cool (後編)

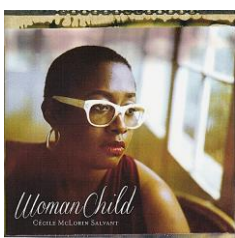
◎ 5		Karrin Allyson / Moanin' (IN BLUE (2002)) '5:58' Danny Embrey (g), Mulgrew Miller (p), Peter Washington (ds), Lewis Nash (ds), Steve Wilson (as) 1963.7.27 アメリカ合衆国生れ (55歳) アカペラ風のハミング・ヴォーカルとベースの掛け合いが印象的なイントロ。低めの声質を生かしつつ、終始抑え気味に歌うところが何ともクールで魅力的。
◎ 6		Sinne Eeg / Strawberry Fields Forever (The Beauty of Sadness (2012)) '5:28' Peter Erskine (ds), Morten Ramsbol (b), Jacob Christoffersen (p), etc & Orchestra 1977.9.1 デンマーク生れ (41歳) ハスキーでやや男性的な声質、そして目を瞞る程の美貌が魅力。もちろん歌唱力も抜群。ジャズ的な要素は少ないものの、バラード調にアレンジされたビートルズの名曲を感情豊かに歌いあげる。

女性ヴォーカルの魅力

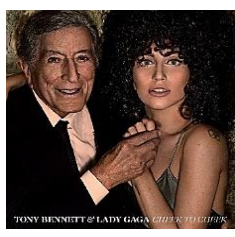
Husky & Jazzy

● 7		Toni Harper / Can't We Be Friends? (Toni (1956)) '3:25' * MONO Oscar Peterson (p), Herb Ellis (g), Ray Brown (b), Alvin Stoller (ds) 1937.6.8 アメリカ合衆国生れ (82歳) 数々の音楽雑誌で”最高にジャジーな1枚”と評されたアルバム。 大物ミュージシャンたちをバックに、録音当時 18歳という若さとは思えない大人びた声と表現力が素晴らしい。
● 8		Helen Merrill / Don't Explain (Helen Merrill (1954)) '5:10' * MONO Clifford Brown (tp), Danny Bank (fl), Jimmy Jones (p), Barry Galbraith (g), Milt Hinton (b), Osie Johnson (ds) 1930.7.21 アメリカ合衆国生れ (本日 89歳の誕生日) まとわりつくようなハスキー・ヴォイス、「ニューヨークのため息」。女性ジャズ・ヴォーカル・アルバム金字塔。哀愁を帯びたダニー・バンクのフルート、そして” with Clifford Brown ”というサブタイトル？通り、若きクリフォード・ブラウンのトランペットも本アルバムの聴き所。

One and Only

◎ 9		Cecile McLorin Salvant / I Didn't Know What Time It Was (Woman Child (2013)) '6:06' Arron Diehl (p), Rodney Whitaker (b), Herlin Riley (ds), James Chirillo (g) 1989.8.28 アメリカ合衆国生れ (29歳) 2010年、21歳でセロニアス・モンク・コンペティション優勝。2016年グラミー賞最優秀ジャズ・ヴォーカル・アルバム賞。クール、ソフト、キュート、ハスキー・・・あらゆる要素を併せ持ったような唯一無二の天性の声、歌唱力、表現力。独特のリズムで進行する曲調も秀逸。
-----	--	---

Duet

◎ 10		Tony Bennett & Lady GAGA / I Won't Dance (Cheek To Cheek (2014)) '3:55' Tom Ranier (p), Joe Lovano (ts), Orchestra & Brass 1986.3.28 アメリカ合衆国生れ (33歳) 世界トップスターの座に上りつめたポップ・ロック界の女王、レディー・ガガ。 その奇抜で過激なファッションやメイクなど、純粋なジャズ・ファンからはやや敬遠される嫌いもあるが、重鎮トニー・ベネットとの明るく楽しい完成度高いジャズ・デュエットは見事。
------	---	---

● LP ◎ CD

ヴォーカリスト / 曲名 (収録アルバムタイトル (録音年)) '演奏時間'

※ダイレクト・カッティング(概略)

通常のアナログ・レコード制作におけるテープ録音プロセス (*) を全て省略し、ミュージシャンの演奏をその場で同時に直接ラッカー原盤に音溝として刻み込んで (カッティング) いきます。
そのため1曲ずつ休憩等しながら録音できる通常方式と違い、レコード片面分を一気に演奏することになるだけでなく、ほんのわずかの失敗も一切許されない極めて緊張度の高いレコーディングとなります。
ダイレクト・カッティングにより得られる音はレンジが広く、クリアで自然で、現在では当たり前となっているデジタル録音にはない「アナログならではの生々しさ」が大きな魅力です。

(*) マルチトラック・テープに録音 ⇒ 加工 ⇒ 編集 ⇒ ミックスダウン ⇒ マスター・テープの作成